

## EUSI メールマガジン Vol. 016

### 「なぜ EU は 2012 年ノーベル平和賞を授与されたのか」(田中俊郎)

EUSI (EU Studies Institute in Tokyo)は、一橋大学・慶應義塾大学・津田塾大学の3校のコンソーシアムによるEUに関する教育・研究・広報を行う拠点です(詳しくは以下をご覧ください)  
[http://eusi.jp/content\\_jp/aboutus/about\\_eusi/](http://eusi.jp/content_jp/aboutus/about_eusi/)

#### 【EUSI Commentary Vol. 011】

##### 「なぜ EU は 2012 年ノーベル平和賞を授与されたのか」

田中俊郎(慶應義塾大学名誉教授、ジャン・モネ・チェア、EUSI ガバナー)

毎年、アルフレッド・ノーベルの命日にあたる12月10日にノーベル賞の授与式が举行される。2012年は、山中伸弥京都大学教授が医学生理学賞を受賞したことで、わが国でも関心が高まっている。物理学、化学、医学生理学、文学、経済学部門のノーベル賞はスウェーデンのストックホルムで授与式が行われる。しかし、平和賞だけは、ノルウェー・ノーベル委員会(The Norwegian Nobel Committee)が選考し、授与式もオスロの市庁舎で行われる。

ノルウェー・ノーベル委員会は10月12日、2012年ノーベル平和賞をEU(欧州連合)に授与することを発表した。その理由として、「(欧州)連合およびその前身の諸機構が、60年以上にわたって欧州において平和、和解、民主主義、人権の向上に貢献してきた」とした。わが国では、EUといえば、関税同盟やユーロに象徴されるような経済共同体的イメージが強く、なぜEUが平和賞かと疑問を呈するむきもあるので、改めて上記の理由の4つのキーワードを具体的に説明しておきたい。

すでに本メールマガジンのCommentary Vol. 002「なぜEUの誕生日は5月9日か？」で述べたように、今日のEUの出発点は1950年5月9日に発表された「シューマン・プラン」であり、そこから1951年4月18日に欧州石炭鉄鋼共同体(ECSC)条約(パリ条約)が調印され、1952年8月10日にECSCが発足した。その目的は、石炭と鉄鋼という経済的な手段を使いながら、ドイツとフランスの間で、ひいては欧州において、戦争を不可能にする「不戦共同体」を構築することであった。平和と和解こそが、シューマン・プランの原案を作成したジャン・モネが目指していたものであった。ドイツとフランスの対立と確執が、普仏戦争(1869-70年)、第一次世界大戦(1914-18年)、第二次世界大戦(1939-45年)の原因のひとつになっていたことを想起すれば、第二次大戦後少なくともEUの前身の諸機構、ECSC、後の欧州経済共同体(EEC)、欧州原子力共同体(EAEC)、三共同体の執行・決定機関が統一され1967年に成立した欧州共同体(EC)、1993年に誕生したEUの域内では戦争が発生せず、問題が軍事的な手段ではなくルールと話し合い、さらに司法的な手段も使いながら解決されてきたのは、欧州統合の国際社会にとって最大の貢献であったと評価される。しかも、当初ECSCに参加したのは、フランス、西ドイツ、イタリア、ベネルクス三国の計6カ国であったが、五次にわたる拡大によって加盟国は27カ国におよび、「不戦共同体」の領域はほぼ欧州大にまで広がっているのである。

...

(続きはこちら↓)

<http://www.hit-u.ac.jp/kenkyu/eusi/eusicommentary/vol11.pdf>

### 【EUSI イベントご案内】

EUSI 国際シンポジウム「福島後の原子力損害賠償：日本の視点、欧州の視点」

日時: 2012 年 12 月 20 日(木) 13:00-17:30

会場: 如水会館 3 階 松風の間

使用言語: 日本語・英語(同時通訳付き)

参加: 12 月 12 日(水)まで EUSI 事務局([hit-u@eusi.jp](mailto:hit-u@eusi.jp))に申込み下さい(先着 80 名)

司会: 川崎恭治 (EUSI 所長・一橋大学法学研究科教授)

第一部: 日本における原子力損害賠償の現状と課題

1) 行政法の視点から

原田大樹氏 (九州大学大学院法学研究院准教授)

2) 民法の視点から

中島肇氏 (弁護士、原子力損害賠償紛争審査会委員)

3) 原子力損害賠償諸条約への日本の取り組み

中込正志氏 (外務省国際法局条約課長)

第二部: 欧州を含む国際社会における原子力損害賠償への取り組み

世界における原子力損害賠償の現状と課題

パトリック・レイナー氏 (INLA 事務局長)

第三部: 総括 パネル・ディスカッション

[http://eusi.jp/content\\_jp/outreach/seminar/20121220\\_symposium.html](http://eusi.jp/content_jp/outreach/seminar/20121220_symposium.html)

### 【EUSI 所属研究者による記事・執筆情報紹介】

山内進(EUSI 前理事長・一橋大学学長)が以下の本を刊行しました。

山内進『文明は暴力を超えられるか』(筑摩書房、2012 年 10 月 10 日刊行)

<http://www.chikumashobo.co.jp/product/9784480867216/>

本書は、西洋史を「共存」と「境界」の相克という視点から整理し、十字軍の内実、聖戦と正戦、フェーデと文明化、グロティウスとホッブズの比較、万国公法と日本などのテーマを通して、暴力(戦争)への衝動と理性的な秩序形成の試みが交差してきた過程を考察した本です。

細谷雄一(EUSI 執行委員・慶應義塾大学法学部教授)が以下の本を刊行しました。

細谷雄一『国際秩序 18 世紀ヨーロッパから 21 世紀アジアへ』

(中公新書、2012 年 11 月 25 日刊行)

<http://www.chuko.co.jp/shinsho/2012/11/102190.html>

「均衡」・「協調」・「共同体」。

これらは近代ヨーロッパが生んだ国際秩序の基本原則です。本書はこの三つの体系を手がかりに、スペイン王位継承戦争から、ウィーン体制、ビスマルク体制、二度の世界大戦、東西冷戦、そして現代に至る 300 年の国際政治の変遷を読み解きます。

平和で安定した時代はいかに築かれ、悲惨な戦争はなぜ起こってしまったのか。  
複雑な世界情勢の核心をつかみ、日本外交の進むべき道を考えるための必読書。

### 【EU に関するニュース】

- 2012 年 11 月 16 日 アシュトン EU 上級代表、イスラエルとガザで激化する暴力に対して憂慮と遺憾を声明
- 2012 年 11 月 16 日 Eurostat、9 月貿易統計発表。ユーロ圏 17 カ国で 98 億ユーロ黒字、EU27 カ国で 126 億ユーロ赤字
- 2012 年 11 月 16 日 欧州委員会、ミャンマー・ラカイン州の民族間闘争犠牲者の救済資金を 100 万ユーロ追加
- 2012 年 11 月 16 日 キプロス国営放送 CyBC 世論調査、トロイカ支援協議に関して大統領の手腕に 79% が不満と回答
- 2012 年 11 月 19 日 EU 外務防衛理事会、シリア反体制派による統一組織「シリア国民連合」樹立を歓迎
- 2012 年 11 月 19 日 ポルトガル、欧州委員会・ECB・IMF 支援の第 6 次審査を通過。同国に 25 億ユーロ融資へ
- 2012 年 11 月 19 日 アシュトン EU 上級代表、ミャンマー政府による政治囚釈放を歓迎する声明
- 2012 年 11 月 19 日 欧州クラウドコンピューティング・パートナーシップ(ECP)運営委員会、初会合
- 2012 年 11 月 19 日 英産業連盟(CBI)、英国国内の EU 脱退論に対して強く警鐘。EU との関係維持の必要性を強調
- 2012 年 11 月 20 日 ユーログループ財務相臨時会合、ブリュッセルで開催。ギリシャ融資再開協議するも結論出ず
- 2012 年 11 月 20 日 キャメロン英首相、来年の G8 首脳会議を北アイルランドで開催と発表。バローゾ委員長ら歓迎
- 2012 年 11 月 20 日 欧州議会、2014 年欧州議会選挙から他の加盟国での立候補の手續簡便化を可決
- 2012 年 11 月 20 日 欧州委員会、新教育戦略「Rethinking Education」発表。若年層の労働市場への適正など目的
- 2012 年 11 月 20 日 アシュトン EU 上級代表、世界子どもの日に、EU の児童権利推進・保護を謳った声明を発表
- 2012 年 11 月 20 日 EU・米国、インターネットを児童にとってより安全なものにするための共同宣言署名
- 2012 年 11 月 21 日 ファン＝ロンパイ議長・バローゾ委員長・アシュトン EU 上級代表、ガザ停戦合意歓迎を声明
- 2012 年 11 月 21 日 財務省、10 月貿易統計(速報値)発表。対 EU 輸出は前年同月比 20.1%減と、13 カ月連続で減少
- 2012 年 11 月 22 日 EU・カナダ通商相会談、ブリュッセルで開催。EU・カナダ FTA 交渉完了へ大きく前進
- 2012 年 11 月 22 日 欧州理事会、メルシュ・ルクセンブルク中央銀行総裁を ECB 専務理事に任命
- 2012 年 11 月 22 日 アシュトン EU 上級代表、インドの死刑執行に対して憂慮を声明
- 2012 年 11 月 23 日 欧州理事会、2014-20 年 EU 中期予算(1 兆 100 億ユーロ案)合意至らず。現 2007-13 年は 1 兆 340 億
- 2012 年 11 月 23 日 レーン欧州委員、欧州委員会・ECB・IMF トロイカのキプロス財政健全化協議進展へ歓迎声明
- 2012 年 11 月 25 日 アシュトン EU 上級代表、女性に対する暴力廃絶のための国際デーに寄せて声明発表
- 2012 年 11 月 26 日 EU 理事会、エジプトとチュニジアに対して EU 制裁下で凍結された資金返還を促す措置決定
- 2012 年 11 月 26 日 欧州委員会、ビザ免除における相互主義原則の違反に関する第 7 次報告書を採択
- 2012 年 11 月 27 日 ユーログループ財務相会合、対ギリシャ融資再開、437 億ユーロで合意。債権放棄は見送り
- 2012 年 11 月 27 日 アシュトン EU 上級代表、ミャンマーの人権状況に関する前日の国連総会決議採択を歓迎
- 2012 年 11 月 27 日 欧州議会・欧州委員会・EU 理事会、ソブリン債格付けに関するより厳格な EU 規則に合意
- 2012 年 11 月 28 日 欧州委員会、「深化した真の経済通貨同盟(EMU)」に向けた詳細計画を採択
- 2012 年 11 月 28 日 EU 理事会、トニオ・ボルジ マルタ副首相・外相を保健・消費者政策担当欧州委員に任命
- 2012 年 11 月 28 日 駐日 EU 代表部経済担当官レネ・ダイグナン監督作品「自殺者 1 万人を救う戦い」上映会開催
- 2012 年 11 月 29 日 EU 外務理事会・貿易相理事会、日・EU EPA 交渉開始権限を欧州委員会に対し了承。正式開始へ

- 2012 年 11 月 29 日 国連総会、パレスチナの非加盟オブザーバー国家資格に関する決議。EU 含め圧倒的多数賛成
- 2012 年 11 月 29 日 欧州委員会、2020 年までの EU 環境政策指針となる環境行動計画(EAP)に関する提案
- 2012 年 11 月 30 日 Eurostat、10 月失業率(季節調整済)は、EU27 カ国 10.7%、ユーロ圏 17 カ国 11.7%と微増
- 2012 年 11 月 30 日 日・EU 公開フォーラム「日本と EU の成長戦略と財政の持続可能性の実現」開催
- 2012 年 11 月 30 日 駐日 EU 代表部、2013 年日・EU 貿易投資促進「EU Gateway Programme」展示商談会日程発表

### 【編集後記】

巻頭エッセーは、EU のノーベル平和賞授賞式にちなみ、田中俊郎教授に寄稿をお願いしました。

現在の欧州は、未だ予断を許さないものの、最悪の危機的な状況を脱しつつあるという見方も徐々に出てきました。そのため、EU がこれから金融・財政などの分野でどのような制度を構築するのか、という点に関心が高まりつつあります。今回の授賞は、戦後の欧州を平和に導いたという過去の実績に対してだけでなく、欧州危機後の新たな取り組みを担う EU に対する期待が込められていると言えるのではないのでしょうか。

(林 秀毅・EUSI・一橋大学・EUSI メールマガジン編集担当)

今日 12 月 10 日はノーベル賞授賞式の日にあたります。この記念すべき日に、田中俊郎先生より EU ノーベル平和賞受賞に関する巻頭エッセーを配信することが出来るのは、大変嬉しい偶然であるように思われます。

また、山内進前理事長と細谷雄一先生のお二人より、ヨーロッパにおける戦争と平和、そして秩序形成の歴史が、国際関係史全体の中でどのように意味付けられるかを問う意欲作をご紹介できるのも、今年を締め括るに相応しい内容になったと思います。

毎月 10 日・25 日刊行の EUSI メールマガジンは、本号が 2012 年最後の刊行です。次回は、2013 年 1 月 10 日に刊行予定です。来年も皆様に有益な情報を提供できるよう今後も精進してゆきたいと思います。どうぞ皆様良いお年をお迎え下さい。

(林 大輔・EUSI 慶應分室・EUSI メールマガジン編集担当)

---

EUSI (EU Studies Institute) in Tokyo

〒186-8601 東京都国立市中 2-1

一橋大学 マーキュリータワー#3504 EUSI 事務局

TEL: 042-580-9117 / E-mail: info@eusi.jp

ご意見、ご感想、配信登録・配信停止、その他メールマガジンについての  
問い合わせにつきましてはこちら

E-mail: info@eusi.jp

---